



「いのち」について考える 公開シンポジウム

第2回

医学の視点から

① 基調講演

～いのちの始まり～

医学からの貢献とは



慶應義塾大学 医学部教授
内閣官房参与

吉村 泰典 先生

② パネルディスカッション

〈パネリスト〉

埼玉医科大学 精神腫瘍科教授
(家族・遺族外来)

大西 秀樹 先生

東邦大学医療センター大橋病院
心臓血管外科教授

尾崎 重之 先生

世界保健機構 (WHO)
HIV-TB チームリーダー

藤田 雅美 先生
(芝中高卒 77 回生)

〈コーディネーター〉

国際医療福祉大学三田病院 倫理委員
(浄土宗 心光院住職)

戸松 義晴 先生
(芝中高卒 67 回生)

と き: 2014年 1月25日 土
14時～16時 [開場13時]

会 場: 芝学園講堂

先着

1,200名

入場無料

予約不要

どなたでも聴講できます。お気軽においで下さい。

主催 学校法人 芝学園 芝中学校 芝高等学校 後援 芝学園同窓会

【問い合わせ先】〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-37 TEL.03-3431-2629

芝中学校第三代校長、渡邊海旭先生が、明治44年(1911年)9月、校長に就任されてから一世紀を経た今日まで、仏教精神である「共生(ともいき)」のこころと、先生が校訓として定められた「遵法自治(じゅんぽうじち)」の精神は芝教育の根本理念として脈々と受け継がれてきました。

生徒ひとり一人の個性を尊重し、周囲の人々によって生かされていることを認識する人間教育は芝学園の誇りでもあります。

いま私たちは、経験したことのないような少子高齢化社会を迎えようとしています。人が生きていくうえで、避けることができない「生老病死」の四苦。仏教はそれらの苦しみに寄り添うことを説きますが、実際に社会で「いのち」を支えているのは医療であるといえます。

命の始まり「生」を支える不妊治療や出生前診断、「老い」や「病い」の苦しみに寄り添い、「死」の場面のみならず、家族や大切な人を亡くした遺族をも外来として受け入れ、支えている医療があります。また、日常で医療を受けられないような国や地域では、予防医学の果たす役割が大きいのです。

医療現場の生の声から「いのち」を支える熱い思いを、皆さんにお伝えできればと思います。

芝中学校、芝高等学校からの発信にご注目下さい。お越しいただくことを心よりお待ちしております。

渡邊海旭 先生 略歴

- 1872(明治5年) 浅草田原町に生まれる。
- 1887(明治20年) 浄土宗学東京支校に入学する。
- 1898(明治31年) 西光寺住職となる。
- 1900(明治33年) 浄土宗第1期海外留学生として、ドイツ(現フランス)のストラスブルグ大学へ留学する。
- 1910(明治43年) 帰国する。
- 1911(明治44年) 9月、芝中学校第三代校長就任。のち逝去まで勤める。
- 1926(大正15年) 浄土宗の最高学位勸学に叙せられる。
- 1932(昭和7年) 仏教研究所長就任。
- 1933(昭和8年) 1月26日逝去(61才)。

